

1

中原遺跡3区

なかはらいせき

調査区

坂戸市大字堀込字番匠ヶ谷戸

調査期間

平成22年4月2日～4月26日

調査原因

個人住宅建設

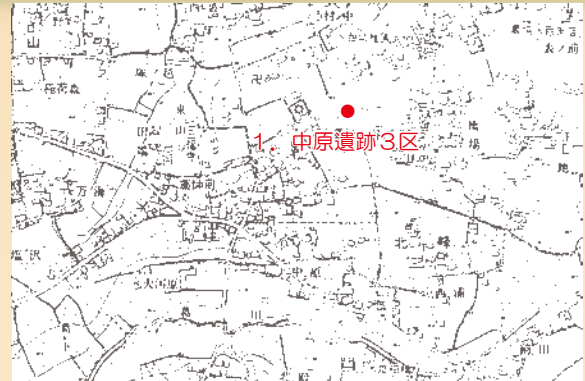
確認された遺構と年代

古墳—1基（古墳時代）
堀—1条（中世）
土塁—（中世）

中原遺跡は坂戸市の北東部、越辺川と高麗川に挟まれた台地に位置しています。

今回の調査で発見された土塁や堀は、堀込館の一部で、出土した土器から中世に造られた可能性が考えられます。

また、土塁の下からは古墳（北峰26号墳）の周溝が新たに発見されました。



1. 中原遺跡3区



土塁の断面

2

中原遺跡4区

なかはらいせき

調査区

坂戸市大字北峰字中原

調査期間

平成22年4月19日～4月30日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

古墳—1基（古墳時代）

中原遺跡の周辺は、坂戸市の中でも古墳が多く造られた場所で、現在でも墳丘が残っている古墳が見られます。

今回の調査では、古墳の周溝が1基検出され、幅約2.5m、深さ約0.6mで掘り込まれていました。

この周溝からは土師器杯がほぼ完全な形で出土しました。



2. 中原遺跡4区



発見された古墳の周溝

3

花影遺跡20区

はなかげいせき

調査区

坂戸市三光町

調査期間

平成22年4月1日～5月13日

調査原因

戸建分譲住宅建設

確認された遺構と年代

住居跡—1軒（縄文時代中期）
火葬遺構—1基（中世）
土坑—5基（時期不明）
溝—2条（中世）

花影遺跡は、高麗川を臨む台地縁辺に位置する遺跡です。

今回の調査では、一辺約4mの縄文時代中期の住居跡や中世の火葬遺構などが発見されました。

住居跡の中央では炉が見つかり、その周りに柱穴が並んでいました。



3. 花影遺跡20区



縄文時代中期の住居跡

4

勝呂遺跡23区

すぶろいせき

調査区

坂戸市大字石井字上宿

調査期間

平成22年4月19日～7月1日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

古墳—2基（古墳時代後期）
地下式坑—2基（中世）
土坑墓—42基（近世）
溝—2条（時期不明）

勝呂遺跡は、坂戸市北東部の坂戸台地縁辺に広がる遺跡です。

今回の調査では、古墳2基、近世の土坑墓42基などが見つかりました。古墳の周溝からは埴輪片が多く出土し、本来古墳の墳丘に立っていたと考えられます。

また、土坑墓からは副葬された多くの土器や銭貨などが出土しました。



4. 勝呂遺跡23区



古墳の周溝から多く出土した埴輪片

5

大河原遺跡5区

お
お
が
わ
ら
い
せ
き

調査区

坂戸市大字北峰字大河原

調査期間

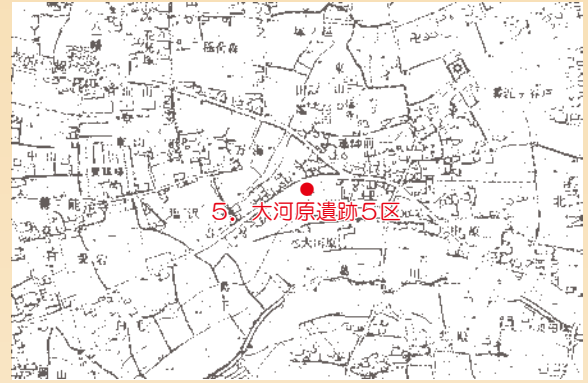
平成22年4月1日～7月5日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

古墳—9基（古墳時代中期後半～後期）
 住居跡—8軒（古墳時代前期・後期）
 土坑—6基（中世・時期不明）
 溝—1条（古墳時代前期・時期不明）



5. 大河原遺跡5区

大河原遺跡は、葛川左岸の毛呂台地縁辺に立地しています。

今回の調査では、古墳時代前期の住居跡と円墳が密集した状態で発見されました。古墳の墳丘は消滅していましたが、周溝からは土師器や須恵器が出土しました。住居跡からは弥生土器系統の吉ヶ谷式土器と土師器が出土したのが注目されます。



11号墳(横穴式石室)

6

明泉遺跡10区

み
よ
う
せ
ん
い
せ
き

調査区

坂戸市大字塚越字明泉

調査期間

平成22年6月29日～7月15日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

土 罌—1基（中世）
 堀—1条（中世）
 住居跡—6軒（盛土保存） 溝—3条（盛土保存）



6. 明泉遺跡10区

明泉遺跡は、西光寺の東側に位置する遺跡です。今回の調査で、土罌とそれに伴う堀が確認されました。土罌は高さ約0.8m、幅8mで、堀は深さ約2.5mの規模でした。この土罌と堀は、中世の館の一部であると考えられます。

また、土罌の下からは、古墳時代の住居跡や溝を確認することができました。



堀の断面

7

大穴遺跡4区

おおあな
いせき

調査区

坂戸市大字中小坂字大穴

調査期間

平成22年7月27日～8月9日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

井戸-1基 (奈良・平安時代)
土坑-20基 (中世～近世)
ピット群 (中世～近世)
溝 -2条 (中世～近世)

大穴遺跡は、坂戸市の南東、大谷川左岸の台地縁辺部に立地し、至近には中世から近世の館と考えられる大穴城^{おおあなじょう}があります。

今回の調査は狭い範囲でしたが、古代から近世に至る遺構が多く発見されました。また、大穴遺跡では初めて奈良・平安時代の遺構が発見され、井戸からは須恵器甕^{かめ}が出土しました。



7. 大穴遺跡4区



調査区全景

8

花影遺跡21区

はなかげ
いせき

調査区

坂戸市三光町

調査期間

平成22年7月22日～8月20日

調査原因

集合住宅建設

確認された遺構と年代

掘立柱建物跡 -1棟 (時期不明)
井戸 -1基 (平安時代)
竪穴状遺構-1軒 (中世)
土坑 -10基 (中世～近世)
ピット -10基 (時期不明)
溝 -4条 (中世～近世)

花影遺跡は、坂戸市の中央部やや西側の台地縁辺部に位置しています。

今回の調査で、掘立柱建物跡や井戸、土坑などを発見しました。井戸からは須恵器が出土し、周辺には川原石が散乱していました。



8. 花影遺跡21区



1号井戸と周辺に広がる川原石

9

上谷遺跡10区

かみやいせき

調査区

坂戸市大字中小坂字金山

調査期間

平成22年7月6日～9月9日

調査原因

宅地造成工事

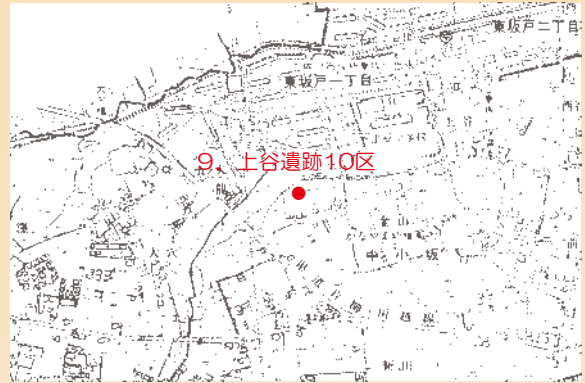
確認された遺構と年代

住居跡—8軒（縄文時代中期）
 —1軒（古墳時代前期）
 集石土坑—6基（縄文時代中期）
 埋 甕—2基（縄文時代中期）
 土 坑—23基（縄文時代中期・時期不明）
 遺物集中—1箇所（縄文時代中期）
 ピット—11基（時期不明）
 溝 —2条（時期不明）

上谷遺跡は、坂戸市南東部、台地の縁辺に位置し、北側に大谷川が流れています。

縄文時代中期の住居跡は8軒発見され、多くの縄文土器が出土しました。

中小坂地区で縄文時代の集落を調査した事例は少ないため、重要な調査となりました。



9. 上谷遺跡10区



5号住居跡

10

町東遺跡4区

まちひがしせき

調査区

坂戸市大字戸宮字町東

調査期間

平成22年9月27日～10月14日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

道路遺構—1条（古墳時代後期～奈良・平安時代）

町東遺跡は、坂戸市の中央部やや南側の台地上に位置しています。

調査では、並走する2条の溝が発見され道路の側溝と考えられます。溝は直線的に延び、溝と溝の距離は約10.4mです。この道路遺構を北側に延長すると、古代寺院である勝呂廃寺の東側を通過します。溝の特徴などから、東山道武蔵路の可能性が高く、全国的に注目されています。



10. 町東遺跡4区



発見された東山道武蔵路の側溝

調査区

坂戸市大字塚崎地内

調査期間

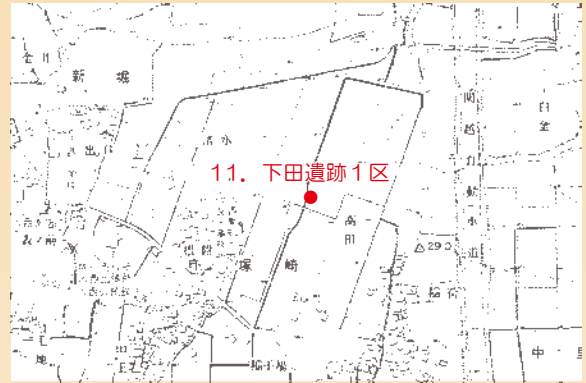
平成22年9月6日～
平成23年1月26日

調査原因

坂戸西スマートインターチェンジ
整備事業

確認された遺構と年代

住居跡—24軒（古墳時代後期～奈良時代）
 掘立柱建物跡—11棟（古墳時代後期～奈良時代）
 焼成土坑—4基（奈良時代） 井戸—2基（時期不明）
 竪穴状遺構—1軒（中世） 土坑—60基（古墳時代～中世）
 溝—29条（古墳時代～中・近世） ピット群（時期不明）



11. 下田遺跡1区

下田遺跡は、坂戸西スマートインターチェンジ整備事業に伴う調査で、初めて発見された遺跡です。下田遺跡の北西側、現在のにつさい花みず木には、入西遺跡群と総称される古墳時代から中世にかけての大規模な遺跡が広がっています。今回の調査では、古墳時代後期から奈良時代にかけての集落が発見されました。

住居跡からは、数多くの土師器や須恵器が出土し、須恵器の中には現在の静岡県湖西市で生産されたものも多く含まれているのが特徴です。この他、掘立柱建物跡の柱穴からは、当時使用されていた柱が残っていました。

また、中世の遺構からは非常に貴重な青白磁や白磁、青磁なども発見されました。



調査区空撮



カマドの周囲から出土した土器



良好に残っていた掘立柱建物跡の柱



調査風景

12

西浦遺跡 16区

調査区

坂戸市大字新堀字表ノ前

調査期間

平成23年1月7日～1月26日

調査原因

(仮称)入西地域交流センター建設

確認された遺構と年代

住居跡—1軒(縄文時代後期)
掘立柱建物跡—4棟(奈良・平安時代)
土坑—13基(時期不明)
溝—5条(時期不明)



12. 西浦遺跡16区

西浦遺跡は坂戸市の北西部、台地縁辺に立地し、東側には葛川が流れています。

縄文時代の住居跡は、ほとんどが削平されていましたが縄文土器を埋設した炉などが発見されました。

掘立柱建物跡は、小規模なものですが柱穴の中から当時使用していた柱の一部が見つかりました。



掘立柱建物跡を構成する柱穴群

13

中原遺跡 5区

調査区

坂戸市大字堀込字番匠ヶ谷戸

調査期間

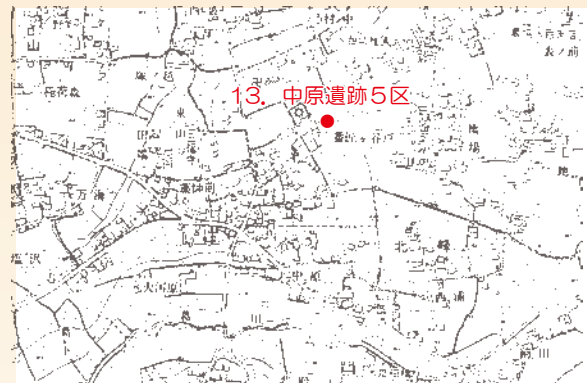
平成22年10月20日～
平成23年1月31日

調査原因

宅地造成工事

確認された遺構と年代

土塁—(中世)堀—3条(中世)
道路遺構—2条(近世)掘立柱建物跡—4棟(中世)
井戸—1基(中世)土坑—18基(縄文時代・中・近世)
溝—18条(中・近世)ピット群—(時期不明)



13. 中原遺跡5区

今回の調査区周辺には、中世の堀込館の一部である土塁などが残っています。

発掘調査によって、土塁や堀、掘立柱建物跡などが発見され、堀込館の様相が明らかとなりました。堀の深さは約2mあり、三重に巡っていたことがわかりました。

遺物の出土は少ないですが、かわらけやのこぎり鋸などが出土しました。



調査区全景

14

 あしやま・ほとがやいせき
 芦山・宝戸ヶ谷遺跡3区

調査区

坂戸市芦山町

調査期間

平成23年1月6日～2月10日

調査原因

建売住宅建設

確認された遺構と年代

 住居跡—2軒(古墳時代)
 竪穴状遺構—9軒(中世)
 土坑—17基(中世)
 溝—3条(中世～近世)

芦山・宝戸ヶ谷遺跡は坂戸市の中央部、北坂戸駅の東側に位置しています。

今回の調査では、たてあなじょういこう竪穴状遺構や溝など中世から近世の遺構が多く発見されました。1号溝の断面は逆台形で、最深部で約1.5mの深さがありました。中世から近世の堀や区画溝であった可能性があります。



14. 芦山・宝戸ヶ谷遺跡3区



調査区全景

15

 くらがやといせき
 蔵ヶ谷戸遺跡4区

調査区

坂戸市大字塚越字蔵ヶ谷戸

調査期間

平成23年2月21日～3月11日

調査原因

個人住宅建設

確認された遺構と年代

 住居跡—2軒(奈良時代)
 竪穴状遺構—1軒(中世)
 土坑—7基(時期不明)
 溝—1条(中世)

蔵ヶ谷戸遺跡は、坂戸市の北東部の台地に位置する遺跡です。西側には、古代の官道かんどうである東山道武蔵路が通っており、密接な関わりがあったことでしょう。

今回の調査では、奈良時代の住居跡などが発見され、住居の床面からは湖西産須恵器が出土しました。



15. 蔵ヶ谷戸遺跡4区



住居跡の床面から出土した須恵器甕